



Mitsui V-Net

Mitsui Volunteer Network Center

三井ボランティアネットワーク事業団

ニュースレター Vol.52

2014年7月1日発行

開かれた博物館を目指して

神戸市立博物館
館長 梶本 日出夫

神戸市立博物館が所在する神戸市中央区京町筋は、幕末に神戸が開港した時に開かれた神戸外国人居留地の中に当たります。開港時、外国人貿易商たちが住み、文明開化の促進と文化交流の窓口の役割を果たした街です。その後も今日の神戸が国際港湾都市として発展する礎を築きあげた街に発展して参りました。



博物館の建物は、旧外国人居留地の発展を物語る重要な近代建築のひとつ、旧横浜正金銀行神戸支店（桜井小太郎設計・昭和10年竣工）を活用し、特別展示室や収蔵庫などの設備を備えた新館を増築して、昭和57年に開館いたしました。

当館のコレクション（収蔵品）は、「国際文化交流—東西文化の接触と変容」を基本テーマとし、国宝桜ヶ丘銅鐸・銅戈をはじめとする神戸市及びその周辺地域に関係する考古・歴史資料、「聖フランシスコ・ザヴィエル像」や「南蛮屏風」、「泰西王侯騎馬図屏風」などの池長孟（1891～1955）による収集品を中核とする南蛮紅毛美術のコレクション、南波松太郎・秋岡武次郎両氏の収集品を中核とする日本有数の古地図コレクション、日本のガラス工芸史を語る上で欠かすことのできない日本有数の和ガラスを中心とするガラス器のコレクションなど、現在7万点あまりを収蔵しています。

これらの貴重なコレクションを保存・保護するとともに、調査・研究の成果を展示や教育普及の場で活かし、文化技術、教育・学術の分野に深く寄与できることを願っています。

これら幅広い分野のコレクションの魅力を引き出し、教育普及活動などで皆様にお伝えしているのは、職員

だけではありません。当館では、市民参画を進める開かれた博物館とするため、平成20年度より「博物館学習支援（博物館ボランティア）」を導入しました。

「学習支援交流員」は、博物館の活動の基本方針にしたがって、その活動に参加しようとする者の興味・関心・経験・知識・技能などを活かしながら市民と交流し、博物館コレクションの魅力を引き出す学習支援などを行う来館者サービスを通して、社会に貢献しようとするを目的としています。また、参加する者同士の交流や生涯学習の促進をはかることも目的としています。

活動の拠点は、当館1階の学習室。ここには当館のコレクションにちなんで触れることのできる教材や当館のコレクションや神戸の歴史を学べる映像資料があります。ここで来館者との交流と学習支援の活動を展開しています。

その活動の特徴は自主的な参加です。学習支援交流員の皆さんが企画・運営するワークショップは、当館のコレクションにちなんだもので、親子で楽しみながらコレクションの魅力を来館者に伝えています。学習室は、学校行事として来館する学校団体だけでも年間100校以上、1万人以上の児童・生徒が利用する施設です。学習支援交流員たちは、ここで子どもたちの学びと気付きをサポートする学習支援活動をしています。

近年、新たな取り組みとして外国人や視覚障害者の来館者に対する交流と学習支援活動のあり方について検討をしています。「誰もが楽しめる博物館」を目指し、職員と共に研究しています。

三井V-Netに籍を置かれている学習支援交流員もおられ、豊かな経験と知識を持たれ、学習支援交流員の活動においても中核を担っていただいております。皆さんが当館の教育普及活動に加わっていただくことで、誰もが学び、楽しめる開かれた博物館となることを期待しております。今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。



古代ギリシャ風の神戸市立博物館



人と人のまんなかに。

三井V-Net 2013年度運営委員長を退任するにあたり

三井造船(株)

人事総務部人事・採用グループ長 能谷 充



この度、2013年から1年間務めさせていただいた運営委員長を退任することとなりました。

弊社は三井V-Net設立以来の会員会社となっておりますが、恥ずかしながら会員数が少なく、私自身も4年前に現職に異動するまでは三井V-Netの活動についてはほとんど無知の状態でした。

そのような状態で昨年度運営委員長を拝命し、当初は不安で一杯でしたが、何とか一年間務めさせていただくことが出来ました。

在任中には、会員会社の拡大や年会費の課題等、これからの三井V-Netの将来を左右する重要な事項を取りまとめる大役を仰せつかり、山崎事務局長のご指導と運営委員の皆様のご理解のもと、何とか今後の方向性を取りまとめることが出来ました。

また、事務局の方に直接お話を伺う機会に恵まれ、会員の皆様の地道な活動や活発な交流の内容を知り、改めて感銘を受けました。昨年、初めて出席させていただいた本部・支部合同会議では、普段ニュースレターで拝見している関西支部、中国支部の活動内容についても詳しく伺うことが出来、事務局としてのご苦勞に頭の下がる思いでした。弊社は事業所所在地の地理的な問題もあり、参加できるOBは限られていますが、ネットワークの輪を広げられるよう今後も協力して参りたいと思います。

個人的には、大磯のエリザベスサンダース・ホームで開催されたチャリティーコンサートで、雲の合間から日が差し込んで虹が出た時に、サクソ奏者の小林洋平さんとピアニストの木原健太郎さんが即興でオーバー・ザ・レインボーを演奏され、ホールが感動の拍手に包まれたことが忘れられない思い出になりました。また次回も是非伺いたいと思っております。

最後になりますが、團野理事長様、山崎事務局長様をはじめとする事務局の皆様、副運営委員長の三井住友銀行の末廣様、前運営委員長の三井不動産の吉岡様、ならびに運営委員の皆様のご指導、ご協力のおかげで何とか一年間務め上げることが出来ましたことに改めてお礼申し上げます。

本年度以降も運営委員として関わって参りますので、微力ながら三井V-Netの発展にご協力させていただきたいと存じます。一年間、どうもありがとうございました。

本部（東京）

大学部会を横断したイベント 「古民家見学会」を開催

本部事務局

2014年5月10日(土)に三井V-Netでは初めての“大学部会を横断したイベント”として一対一交流を行っている留学生や日本語サロンに参加している方々を対象とした「古民家見学会」を開催いたしました。

9時30分に小田急線向ヶ丘遊園駅に参加者25名が集まり、10分位歩いて川崎市立「日本民家園」(川崎市多摩区)に到着し、お願いしていたボランティアガイドの近藤さん、松下さんにご挨拶の後、英語ガイド班と日本語ガイド班に別れて見学を行いました。参加者25名の内訳は留学生等13名、会員9名、事務局3名でした。

快晴のもと緑に囲まれた広い敷地を歩いて回り、とても気持ちの良い半日でした。日本民家園は昭和42年に開園した古民家の野外博物館で江戸時代の民家を中心に移築、保存しており、20数軒の江戸時代の東日本の代表的な民家等の建物があり、8か国語のパンフレットがありました(英、仏、韓、中国、台湾、タガログ、ポルトガル、スペイン)。今回の見学で得た反省点を改善して今後も継続したいと考えております。

参加した方々から感想をいただきましたので掲載いたします。留学生の感想文は原文のまま掲載しております。



(1) 罪ほろぼしのご案内

近藤 達也(三井住友海上OB)

事務局の山崎さん、大橋さんのご要請でこのたびの「川崎市立日本民家園」訪問のガイド役を務めさせていただきました。

私は10年前に三井V-Netの会員にさせていただいたのですが、誠に申し訳ないことにこれまで多摩川清掃活動に2、3回参加したくらいの「名ばかり会員」であります。その一方、8年前か



ガイド中の近藤さん



らこの民家園でボランティア団体「炉端の会」に所属して囲炉裏焚き、薪割り、案内ガイドなどを行っています。

この施設は川崎市の生田緑地公園内にあり敷地約3万㎡、江戸時代の古民家25棟を蒐集展示する国内最大級の古民家博物館です。日本人にとっては心のふるさと、外国人にとっても日本文化を体感するにはもってこいの施設です。

今回のご案内について参加者からご好評をいただき、私の日頃の活動怠慢のせめてもの罪ほろぼしになりました。これからもできるだけご協力させていただきたいと思っています。

(2) 民家園見学感想

鈴木 和夫 (登録活動会員)



五月の陽気に誘われて、留学生との日本民家見学会へ参加しました。英語ガイドの松下さんの流暢なご案内であっという間に楽しい2時間が過ぎました。松下さんはユーモアを交えながら、日本の歴史をベースに仏教、とりわけ浄土真宗、一向一揆、鉄砲伝来から火薬製法を秘伝にした古民家群、建築工程のエピソードもたくさん紹介されて、博学強記ぶりに留学生たちもうなずく場面もありました。終了後、園内の白川郷のそば屋に入り、手入れされた木々を眺めながら、

Fenosaさん (マダガスカル)、Mohammedさん (パレスチナ)、Hubertoさん (ポーランド)、ボランティアの佐々木さん、八木さんとたぬきそばなどに舌鼓を打ちながら別れを惜しみました。

(3) 川崎市立日本民家園見学

東京大学新領域創成科学研究科
海洋技術環境学 盧永建 (中国)

2014年5月10日、三井V-Netのボランティアの方々と川崎市立日本民家園の見学に行きました。その日の朝は柏駅から出発し、一時間半ほどかけて川崎の向ヶ丘遊園駅に到着しました。そして、三井V-Netのメンバーと他大学の留学生に合流しました。民家園に入る前、私達は2つのグループに分けられました。日本語と英語のグループです。私は日本語グループに所属しました。

最初に見学したのは、民家の資料館です。ボランティア

解説員の方に様々な民家に関するもの紹介していただきました。私の興味がある部分は漁業区域と農業区域の住宅の区別でした。民家モデルを見たところ、農業の住宅はその農家の所有する耕地の中に建てているようでした。そのため、隣土士の住民は少し離れたところで住んでいたようでした。一方、漁業の住宅は密集して建っていました。恐らく、漁業は集団活動なので、仲間と一緒に近くに住んでいたのだと思います。

民家園内は宿場、信越の村、関東の村、神奈川の村、東北の村のエリアに別れていました。これらのエリアは、それぞれの風土に適した工夫がされていました。

宿場のエリアで一番印象が深いのは元々長野県伊那市西町にあった旧三澤家住宅でした。この住宅は薬屋でした。部屋の中の壁に販売する薬の名前が載った板がありました。これらの薬は中国起源の漢方の影響を受けたと考えられます。

信越の村のエリアの旧江向家住宅は、私にとって非常に印象的でした。元は富山県と岐阜県との境に位置する越中五箇山の合掌造りの住宅です。この場所は冬になると多くの雪が降るので、住宅中の梁と柱はととても太く、頑丈に作られていました。そして、屋根の上に雪が積もらないように、屋根の勾配が急傾斜になっているのではないかと思います。さらに、この家は三階建てです。当時厳しい環境でこのような大きな建物が建てられたことは、本当に素晴らしいことだと思いました。

そして、長野県長野市上ヶ屋の水車小屋はととても立派なものでした。小屋で間近に見る水車も素晴らしかったです。

関東の村のエリアで一番印象が深かったのは元々にあった千葉県山武郡九十九里町で実際に使用されていた旧作田家住宅でした。この住宅の主人は漁業をしていたそうで、家の中に漁業用具がそのままに飾られていました。そしてこの部屋は前に紹介した部屋と比べて、天井が低かったです。同じエリアの旧広瀬家住宅も同様に天井が低かったのですが、こちらは元々は山梨県甲州市塩山上萩原にあった建物だそうです。

神奈川の村のエリアの民家は、ほぼ土壁を利用していました。昔、神奈川県川崎市麻生区金程の旧伊藤家住宅はシシマドという正面の格子窓がありました。この格子窓は狼や猪などの獣を防ぐためのものだそうで、非常に興味深かったです。



次は東北の村のエリアで、山形県鶴岡市松沢の旧菅原家住宅がありました。この建物が建っていた地域は信越の村のエ



リアの旧江向家住宅と同じく頻繁に豪雪がある地域でした。この建物は旧江向家住宅と違って、屋根の勾配が急傾斜ではありませんでしたが、この建物全体構造は非常に丈夫そうでした。また、寒さを避けるためか、壁はとても緻密に作られていました。

民家園の見学には2時間ほどかかりました。今回の見学を通して、私は昔の日本の建物の構造を深く理解でき、また日本人の生活の歴史の認識を深めることができました。そして、地区の天候と地形によって、建物の構造と形式に地域による差があることを感じました。さらに、産業によって、建物の立地分布が違うことも感じ取れました。今回の民家園の見学は、非常に有意義で、かつ本当に楽しむことができ、多くのことを学ぶことができました。素晴らしい機会を与えてくれた三井V-Netの皆様、どうもありがとうございました。

(4)三井V-Net 大学部会、日本語サロンなどで国際交流の感想

日本情報学研究所特任研究員

スッパキットパイサーン ウォラポン(東大 タイ)

私は三井V-Netの武内克彦先生と7年間ずっと日本語を勉強させていただいていますが、交流会に参加するのは4年ぶり2回目です。4年前に参加したときお目にかかったボランティアの方や学生さんなどには会えませんでした。感動した点では前回と変わらないと思います。管理して下さる方、ボランティアの方のおかげで、楽しく時間を過ごし世界各国から集まってくる他の留学生と交流できました。今後この交流会でできた友達が日本にいる間でも帰国後でも研究や日常生活についてお互いサポートできたらいいなと思います。

今回、日本民家園まで案内していただきましたが、私は日本歴史・文化・自然を体感でき、新宿から30分以内で行けるこの場所を事前に知りませんでした。到着したあと皆様と一緒に案内書を拝見するとその素晴らしさを初めて実感でき、興奮いたしました。今回ガイドの松下様が英語で案内して下さり、内容は歴史と文化だけではなくその文化と繋がっている科学や建築学なども習えました。理系を研究していますが歴史と文化も好きな私には非常に



興味深い話で、今の環境問題や持続可能な開発など発生した課題を昔考えられた知識で解決できたら大変素晴らしいことだと考えるようになりました。

なかでも、タイ人なのに熱いところが苦手な私は、信越の村にある家のデザイン技術が一番気になりました。火をつけて熱くなると思いましたが、紹介されたデザインによると火をつけると涼しい風が吹かれ、火に近い場所は熱いのに部屋全体が涼しくなります。このような技術を使うとエアコンに使う電気の消費量を削減でき、地球にやさしいかと思われま。

今回ご案内してくださり誠にありがとうございました。できれば、次回も三井V-Netのイベントに参加させていただきたく思っております。

(5)民家園見学感想

フベルト ロゴスキ Huberto Roguski
(東大 ポーランド)



私は大学院で建築を勉強しています。日本の古い建物に前から興味があったので、古民家ツアーの企画イベントに参加させていただきました。

英語のガイドさんが古民家について詳しく建築工程についても説明してくれて、クオリティがとても高く勉強になりました。またこうしたイベントがあれば、参加したいと思っています。ありがとうございました。

ラビー君の帰国を送る

橋本 直樹 (商船三井OB)

昨年10月初めラビー君から連絡があって、11月初めに帰国することにしたので会ってお話しがしたいという。早速吉祥寺駅前で落ち合った。

ラビー君との初対面は2007年6月6日であった。私は一対一交流を始めてから既に3人の留学生(台湾・中国・中国)との交流を終え、もうやめようと思っていた時期であった。

しかし三井V-Netには、もし特にタイ国からの留学生で希望者があれば引き受けてもよいと言っていた。そして紹介されたのがラビー君だった。彼はその6月にバンコクのチュラロンコン大学卒業予定



筆者とラビー君
(2008年11月、高尾山)



人と人のまんなかに。

で、卒業後東大で情報理工系の修士課程を習得したいという希望で日本に来たばかりだった。

面談の結果、彼の力になってやりたいという気持ちになり引き受けた。まずは大学院入試に向けて日本語力のある程度までアップすることだった。

1年経って08年7月末に希望通り大学院修士コース生となった。世田谷祖師谷にある留学生宿舎に入れて寮祭に呼んでくれたり、神宮前広場で開催のタイデーのイベントに遊びに行ったりもした。高尾山にも一緒に登った。千駄ヶ谷の能楽堂で能を見せた時には、演目の底に流れる仏教的なものを感じたといういい感想文を書いてくれ、三井V-Netのホームページに載せたりした。

10年2月修士論文に合格し見事修士号を取得した。卒業式の日には赤門前で待っていて出てきた彼と記念写真を撮り、近くで祝杯を挙げた。

その後の彼の希望は日本で就職してしばらく技能経験を蓄え、そのあと帰国して起業したいというものだった。IT関係の業界に疎い私は就職について何の力にもなれなかった。しかし、彼は独力で、初め池袋の某社、ついで渋谷の方のもっと有力な会社に移り、会社にも貢献して評価を得、技能や人間関係の力を身に付けたようである。その間時々会って近況報告を聞くのは引退の身の大きな楽しみであった。

そうして、冒頭に書いたようにいよいよ帰国して起業するというのである。和牛のすき焼きに誘ってお祝いをした席で、私は「君の事業が軌道に乗った時と君の結婚式には必ずバンコクに行くよ」と言って別れた。そうなることを願いつつ、いつか来る朗報を待っている。
(2014年2月9日 記)

三井V-Net留学生との一対一交流

宮田 哲 (商船三井OB)

昨年の3月にギリシャ人のChristinaさんを紹介されました。彼女の希望が7月におこなわれる「日本語検定試験N2」を受けたいとのことでしたので、合格点に達するよう漢字、語彙、文法については練習問題を使い、読解力の向上については中学2年生の教科書の読み込みをおこないました。

彼女は日本に来てから1年半ですが日常会話についてはヒアリング、スピーキングとも支障はないものの、当然ながら欧米人には漢字が大変に難しく読み進むには苦労がありました。それでも3ヵ月継続して読み進むうちに、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」も読み解くよう



になり、この作品を深いところから味わえるようになりました。受験前1か月の特訓と集中勉強で無事N2検定試験に合格した時には、自分が合格したかのように嬉しい気持ちになり、わが娘、孫たちとともにイタリアンレストランで祝杯をあげました。彼女は昨年9月に大学院を卒業しましたが交流は続いており、今は朝日新聞の天声人語を教材にして日本の歴史、文化、時事問題につきおたがいの意見を交換しています。

私は今年の1月よりもう一人大学院の留学生と交流していますが、彼女は羅さんといい北京外語大日本語学科を卒業しており、日本語は大変に上手で特に読み書きにはすぐれています。彼女の希望は日本の歴史、文化、日本人論について深く知りたいたいとのことでしたので、司馬遼太郎の「この国のかたち」を教材として使っています。彼女からの質問は鋭く、予習を怠るとこちらは冷や汗の思いとなります。私も彼女を通して中国の人々の生活を知ることができ、それには日本の新聞、テレビにはでていないこともあり、とても楽しく交流を楽しんでいます。

この交流を通じ、さまざまな国の留学生に日本について良く理解してもらい、日本を少しでも好きになってくれたらと願っています。

Christinaさん

宮田さんは去年の3月に東京大学柏キャンパスの一対一交流というプログラムで紹介されまして、その時



から私の日本語のチューターとなりました。そのプログラムに申し込んだ理由は日本語の勉強をして、日本語能力試験の2級を受けたかったことだった。

毎週宮田さんとレッスンをし、私の勉強のために色々な準備をしてくださいました。そして一緒に頑張って2級の試験に受かりました。

宮田さんはいつも誠実で親身になって様々な相談に乗ってください、日本の文化や政治や歴史等についても教えて頂きました。勉強以外の時も、友達のように一緒に色々な楽しいことをして、私の今後の仕事のことを心配してくれるような優しさで接してくださいました。このプログラムを通して知り合った宮田さんは、私にはとても良い出会いで嬉しく思い感謝の気持ちでいっぱいです。

羅さん

今年の2月から宮田さんと一対一で日本語を勉強し



人と人のまんなかに。

始めました。最近のニュース、日本の歴史、政治、伝統、観光地、日常生活などについて幅広く教えていただいています。よく宮田さんの知識の広さに驚かされた。何よりも大切なのは、宮田さんは気さくな人で、率直に話すことができますし、いつも責任感をもって外国人の私にも理解できるようにわかりやすく説明してくださる事です。週に一回ほど会っていますが、話はあまり面白くて、ついついよく時間オーバーになっています。ご自分の仕事や生活経験も教えていただいているので、日本人の生活ぶり、考え方についても、少しずつわかるようになり、自分の人生についても考えられました。会ってよかったと思います。

駒澤大学経営学部 特殊講義 I の講師を務めて

駒澤大学部会世話人 鈴木 徹夫 (東芝OB)

三井V-Net駒大部会は駒澤大学国際センターと連携して交換留学生との交流を13年間続けています。昨年経営学部長の高井教授から企業OBが業界や日本企業の仕組み・仕事の仕方・実際の経験などを学生に話す講座を作りたいので協力してほしいとの依頼を受けました。特殊講義Iという名の正式2単位の講座です。実は同様の講義を三井V-Net横浜国大部会は横浜国立大学へ10年前から提供し続けているので、その講師陣から講師をお願い出来るのではないかと考え、三井V-Net事務局の協力を得た結果、初年度は3人が講師を引き受けてくれました。今年度は4名で講座の過半を担当します。4月15日から開始し、岡本靖彦さんが総合商社を中心に3回、次に戸坂純一さんが銀行業務を2回行い、次いで寺島靖夫さんが海外進出と合弁事業他を1回、最後に鈴木が電気・電子産業を2回講義する予定です。受講学生数は昨年が100名、今年は評判を呼んで120名に増加しました。全員にレジメコピーと感想文用紙を配り、マイクと黒板を使って講義を進めます。高井教授によると、パワーポイント画面による講義よりも、昔ながらの黒板へ要点を書く方法が良いとの事です。昨年私は電気産業の歴史・現状・今後の課題と挑戦について自身の経験を織り交ぜながら講義しました。終了時、学生から拍手が沸き起こり講義を評価してくれたことが解りました。出席学生全員が感想文を提出します。これが出席簿の代りになります。教授からお借りした100枚の感想文全てに目を通しま



した。レジメや説明が具体的で解り易かった、電気産業の現状や課題が理解できた、会社活動の実際が聞けて就活のための勉強になったなどと概ね好評価でした。他の講義も学生からの感想文は大変好評でしたと高井教授からお聞きしています。企業OBによる講義は大学教授から聞く理論的な経営学とは異なり、実社会における生体験が聞ける貴重な機会を学生に提供していると思います。今後も要請があるかぎり協力していきます。

した。レジメや説明が具体的で解り易かった、電気産業の現状や課題が理解できた、会社活動の実際が聞けて就活のための勉強になったなどと概ね好評価でした。他の講義も学生からの感想文は大変好評でしたと高井教授からお聞きしています。企業OBによる講義は大学教授から聞く理論的な経営学とは異なり、実社会における生体験が聞ける貴重な機会を学生に提供していると思います。今後も要請があるかぎり協力していきます。

駒澤大学部会 富士山ツアー

駒澤大学部会世話人 鈴木 徹夫 (東芝OB)

2014年5月24日(土曜日)に実施したバス旅行は、快晴に恵まれて稀に見る美しい富士山を堪能することが出来ました。留学生は8名予定のところ、ティム・パッカー君が体調不良で参加を取りやめて7名となりました。

定刻の8時に駒澤大学を出発しましたが、往路の中央高速道渋滞などで時間がかかり、帰着は午後7時半となりました。

富士山は例年になく残雪が多くお中道は閉鎖のままなので、登山道を数百メートル歩いて残雪が2mもある地点で記念撮影。白糸の滝は、昨年整備された階段により滝壺前まで近づくことが出来、マイナスイオンたっぷりの霧に包まれ、150m幅で流れ落ちる神秘的な滝に感動の面持ちでした。

帰りのバスでは留学生同士の会話が活発でまとまりの良さを感じました。

アメリカ人、中国人、台湾人、韓国人、フランス人の留学生同士が日本語でコミュニケーションを取っているのを見て、日本人として一種の感動を覚えました。

旅の最後で取ったアンケートの総合評価では、とても良かったが5人、良かったが2人でした。富士山は6人が、白糸の滝は5人が、とても良かったと評価しま





した。またバス旅行を計画したら参加したいですかの間には全員が“はい”でした。

駒大部会からは沖さん、田川さん、竹田さんと私の四人が引率役で参加しましたが、皆さん忍耐強い引率をしていただき有難うございました。

平成26年春 留学生“横浜Welcome Walk”

伊藤 明彦（三井住友海上火災OB）



2014年4月12日、横浜国大部会では春の横浜Welcome Walkを実施した。

この行事は新留学生に開港から現在までの横浜の歴史ス

ポットの場を案内する横国大主催の恒例行事である。今回は11カ国の留学生24名、大学教職員、部会員等16名、総勢40名が参加。ランドマークタワーを背景に記念撮影し出発。帆船日本丸メモリアルパークを経て、自動車道を通り抜け、ビール祭りで賑わう赤レンガ倉庫へ。さらに開港の道を通り横浜三塔（キング：神奈川県庁、クイーン：横浜税関、ジャック：横浜市開港記念館）を同時に見れば幸運が訪れるというお目当てのスポットの県庁前で思い思いに三塔を撮影し横浜開港資料館へ。その後、日米修好通商条約締結地の開港広場、大さん橋、山下公園を散策。山下公園では、曲芸や神奈川の造園業者による花壇展が留学生の目に留まり、ここでWalkを終了。中華街入り口の朝陽門を臨む水川丸前で解散とした。留学生にとって思い出のwalking tourになったようで、世話人としては無事終了を安堵した。

横浜国大国際課より初参加された齋藤沙織さんより、感想文を寄せていただいたので紹介させていただきます。



留学生とのWelcome Walk に参加して

横浜国立大学国際課 齋藤 沙織

私自身、横浜での生活を昨年末にスタートさせたばかりということもあり、とても新鮮な気持ちで楽しく参加させていただきました。週末に散歩に訪れることもある山下公園やみなとみらいも、横浜の成り立ちを感じながら歩いたのは大変興味深く、とても勉強にもなりました。日本へ来たばかりのいろいろな国の留学生同士が楽しそうに語り合い、また、三井V-Net横国大部会のボランティアの方々とも和やかに交流している姿をみて、少しでも横浜を知り、好きになって、これからの留学生生活をよい気持ちでスタートさせることのできるきっかけとなったのではないかと感じました。この横浜の地で、横浜国大でたくさんのことを経験して母国へ帰国してほしいと思います。そして、日々の業務を通じて、そのお手伝いが少しでもできればと思っています。

留学生と私

実藤 公一（三井金属OB）



左から三人目が筆者

三井V-Netを通じ千葉大の留学生の面倒を見るようになり、今年で12年目になります。その間、5人の留学生を送り出して

きました。韓国、インドネシア、カンボジア、ベトナムなどからの留学生が学士、修士、博士となり巣立っていきました。

彼等とは2年半から4年間一緒に勉強してきました。私としては彼等が折角日本で勉強し、色々な経験をして帰るのであれば、日本での良い印象を持って帰ってもらいたいという思いで彼等とは接してきました。

接し方は月に2度、1回が2時間程度、千葉大の国際教育会館で日鉄技術情報センター編纂の「日本—その姿と心—」をテキストにして日本語と日本の歴史、文化、政治、経済などを勉強しています。最初のうちはかなり難しいようですが半年もすると理解できるようになり日本語も上達してきます。その本を通じお互いの国の文化の違いや、彼らが日本のことをどのように理解しているか、また最近の日本の情勢等をどのように感じているかなど色々なことを話し合います。このことは私自身が楽しく勉強にもなります。また私の家にも来ていただき、酒を飲みながら家族も含め親交を深めています。

これらのことは私の楽しみでもあり、またボケ防止



の一つとしても今後とも続けていきたいと思っています。機会があれば彼らを訪ねてそれぞれの国へも行ってみたいと思っています。

写真はこの4月1日ベトナムのDongXuanPhog君の卒業祝いと送別会を当家で開催した時のものです。現在面倒を見ているNguvenThanhLuan君も参加し、彼らがベトナム料理の春巻きとフォーをつくってくれました。

鎌倉由比ヶ浜海岸清掃に参加して

湘南倶楽部世話人 石渡戸 征治 (三越OB)

連休最終日の5月6日に「クリーンアップ鎌倉2014春」が開催された。由比ヶ浜を始め、材木座海岸、七里が浜海岸等、鎌倉にある浜を一斉に清掃する恒例行事である。

我々三井V-Netも毎年参加して由比ヶ浜の清掃を行っている。今年はやや肌寒い曇り空の中、朝9:30に由比ヶ浜滑川口に会員12名、東芝エレベータ神奈川支社の皆様ご家族含めて34名、新日本空調の皆様ご家族含めて6名、合計52名と大変多くの皆様が参加してくれました。9:45に主催の公益財団法人「かながわ海岸美化財団」が設置した受付にて分別用のごみ袋を個々に貰い受け各自浜でのごみ拾いを一時間ほど行った。

見た目はきれいでも実際浜にでると小さなごみがあり、トンクを利用して細かなごみを集めることにより更にきれいで安全な浜になったことと思う。

早朝から参加いただきました皆様本当にご苦労さまでした。

今回は34名という多数の参加をしてくれた東芝エレベータの豊澤周平さんより感想文をいただいたので下に紹介させていただきます。

ボランティアに対する意識「由比ヶ浜海岸の清掃活動」

豊澤 周平 (東芝エレベータ(株)神奈川支社)

GW最終日の5月6日、会社の仲間と共に由比ヶ浜海岸の清掃活動に参加しました。清掃受付で青・白の



ビニール袋を受け取り、限られた時間内で袋いっぱいのごみ収集を目指しスタート。波打ち際に打ち上げられた海藻が一見ごみのように感じられるが、瓶や缶といった大きなごみもなく、ただひたすらに小さなプラスチック片を拾い続け、目標としていた袋いっぱいには届かなかったものの、由比ヶ浜海岸の美化に少なからず貢献できたと思っています。



当日の海岸線には、青いビニール袋を持ったボランティアの人たちが大勢確認でき、黒いウェットスーツのサーファーたちも

清掃に加わり、地元のボランティアに対する意識の高さを強く感じる事ができました。私は3月まで東北支社勤務をしており、震災後の沿岸部での業務では、仕事とボランティアとの境目がわからない日々直面しました。瓦礫に埋め尽くされていた海岸線も、全国から駆けつけてくれたボランティアの人たちのお陰で、著しい傷あとはまだ残っているものの、今は穏やかな東北の海岸を取り戻しつつあります。ボランティアを通した様々な社会貢献活動に尽力されている三井V-Netに敬意を表し、今後も微力ながらお手伝いをしていきたいと考えています。

日本赤十字医療センターで 会員が永年活動表彰

本部 (東京) 事務局

平成26年3月11日(火)、日本赤十字社医療センターで平成25年度のボランティア総会が開催され、当総会で永年にわたりボランティア活動をされている方々に、遠藤副院長より謝辞の挨拶の後、感謝状贈呈式がありました。今回の授賞対象者は24名でした(活動40年以上1人、35年以上1人、20年以上1人、15年以上2人、10年以上12人、5年以上7名)。



左から5年表彰 上原様、
10年表彰 吉田様、田中様

表彰式終了後、ボランティア会員と病院関係者の懇親会があり、皆様和気あいあいと歓談されていました。

三井V-Netの活動会員から3名の方々が表彰を受けられました。



総会参加の三井V-Net会員の皆様：左から飯野様、前田様、田村様、上原様、田中様、吉田様、最上様、神崎様

10年以上活動表彰：吉田 珠子様
田中 法子様

5年以上活動表彰：上原 美和子様

このたび表彰された吉田様、田中様は1階の総合案内付近で外来患者さんのお世話（再来機の操作・診療科の案内・車椅子の補助・会計機の操作など）、上原様はアロマケアをされています。

同医療センターで活動されている三井V-Net会員は12名の方々に外来受付・アロマケアのほか産科病棟でもボランティア活動をされています。

皆様は、来院の方や患者さんをはじめ病院関係者からも信頼されているとのこと。今後の一層のご活躍を期待します。

<10年以上活動表彰者>

田中 法子（登録活動会員）

日本赤十字医療センター（渋谷区広尾）一階で週一回外来患者さんへのボランティア活動をして10年経ちました。夢のように過ぎた10年です。これはひとえに未熟な私を採用して下さっている日赤の皆様の温かく寛容なお心の賜物と思います。有難うございます。

お世話役の神崎さんが常日頃仰っていること「無理せず・頑張りすぎず・楽しくの精神で」、この気持でこれからも邁進したいと思います。

3月11日総会当日の午前中に外来ボランティア大先輩の最上様のご案内でボランティアの皆様と楽しい散策を致しました。その折、青山霊園内にあります日本赤十字社長（赤十字生みの父）佐野常民氏の墓参をすることが出来ました。明治維新前後の時代、国際赤十字思想に感化され、高邁な思想のもと現在の日本赤十字社の母体設立に尽力した佐野氏のことを知り身の引き締まる思いが致しました。

これからも私は「出会い・喜び・感謝」の気持ちで日赤のボランティア活動をフットワーク良く続けてまいります。

吉田 珠子（商船三井OG）

10年は意外と早く経つものと思いました。外来で活動していると自分が健康であるというありがたさがつくづく感じられます。10年で区切りかな?と思っていたのですが、元気なうちはもう少し続けてみようかなと思っております。

<5年以上活動表彰者>

上原 美和子（登録活動会員）

私をはじめ都の手話講座に参加した時、同じ受講生の中に三井V-Net会員の藤田様がおられ、日赤のボランティアに参加してほしいと誘われ、外来ボランティアを見学したのが、きっかけでした。旧病院でしたが、外来受付と待合室は一杯で驚きました。私は旧日赤病院でアロマの指導されておられた長谷川先生について資格を頂き、アロマでも良いと、当時の三井V-Net事務局高橋様の了解を頂いて、5年前の5月から産科病棟5Bを担当させて頂きました。

ナースステーションに行き、まずはチーフの方にご挨拶し、希望がおありの産婦様の病室をたずねて、自分が持参したオイルを持ち、香りをかいて頂いて了解を得てからハンドマッサージ、フットマッサージ、ご希望に応じ凝った肩のマッサージをさせて頂きました。中には足が腫れてリンパマッサージを必要とされる方もおられました。ご希望に応じさせて頂きましたが、感謝されて光栄に思いました。

5年前は介護度が低い3人の親の介護の中でしたが、やりくりして実施いたしました。現在は介護度5と2ですが、親だけでなく、癒して差し上げたいとの自分の気持ちはやはり、病院勤務経験の中で培われたものかもしれません。

ご希望の方またはナースが必要と思われた方に接し、喜ばれて光栄に思います。総会にて看護師長さんから、私が担当している産科病棟で体験され、気持ち良かったと私の目を見て仰って下さり嬉しく思いました。有料でなく、ボランティアだからこそ、感謝の声が聞けるかと思えます。

平成26年3月11日に日本赤十字社医療センター幕内院長からの感謝状を頂き、5年は早いものと思えました。今ではアロマボランティア希望者がおられると、千葉係長様から見学を兼ねてどのような手順か新しい方に教えてほしい、とまで言われるようになりました。

これも三井V-Netに加入させて頂いたことから始まったものですので、感謝いたします。



「日赤ボランティア総会前の散策」に参加して

日赤ボランティア世話人 神崎



日本赤十字社医療センター主催「ボランティア総会兼永年表彰式」が行われる前の時間を有効活用し

広尾近辺を散策する「総会前の散策」が今年で三回目となりました。最上徹様の企画から名案内人を務めて戴き8名の参加者とともにじつに実り多い散策でございました。

10時45分全員集合し営団地下鉄銀座線外苑前駅一番出口すぐの梅窓院へ。幕府の禁を犯して隠されているといわれるキリシタン灯籠を探して発見しました。次は青山霊園にゆっくり歩き忠犬ハチ公の飼い主、上野英三郎の墓地内にハチ公の碑を見つけました。その後、霊園の中でもひととき広々としたお墓である佐野常民氏の墓前に全員でお花を手向けお参りました。佐野氏は明治維新の直前徳川昭武や渋沢栄一とパリ万博を訪問し、ヨーロッパの国際赤十字思想に感化を受け、帰国後日本赤十字社の前身である博愛社を設立した人物であるとのお話を様々なエピソードを含め伺うことが出来ました。今回も日赤医療センターを中心とした歴史上の人物、建物・古刹・巨木などを訪れ広尾近辺をゆっくりめぐり有酸素運動をした心地良い爽やかな気分で行く日本赤十字社主催「平成25年度日赤医療センターボランティア総会」に向かいました。

関西支部（大阪）

神戸大学留学生の母国スリランカへの訪問記

大西 昭生（日本ユニシスOB）

チャミラ・ペレラさんとは、2007年2月より2008年の3月まで1年間交流しました。彼女は2005年4月より



左から二人目が筆者



左 大西様ご夫妻
右 チャミラさんご夫妻

2008年3月までの3年間で神戸大学経済学マスターコースを終了後、一旦スリランカに帰国され、その年の9月よりオーストラリア、メルボルン大学の経営経済学ドクター

コースへ留学されました。その後もSkypeで結構頻繁に交信を重ねていましたが、その中で「日本のお父さん、お母さんと同じ屋根の下で生活してみたいからメルボルンに来て欲しい」とのお誘いがあり、女房とも相談し2010年12月14日から7泊9日で訪豪しました。

そこには立派な相棒がおられました。PhD. Chandana R.Hewegeさんといい、その時は我々の娘のように、本当にいい婿を見つけたねと褒めてやりました。お陰様で夏のクリスマスシーズンを楽しみ、海水パンツのサンタさんに始めてお目にかかりました。

彼らは現在、Dr.Chandana R.Hewege、Dr.Chamila R.Pereraとして、オーストラリアのスインバン大学で教鞭をとられています。

今回も、Skypeで交信中に「スリランカへ来て下さい」というお誘いがあり、それにお答えして、家内と2014年1月6日より15日までの7泊10日でスリランカを訪問しました。新年早々から関空、仁川空港経由でコロンボに午前4時に到着し、お迎えの車でレントハウスまで帰り、少し休んで朝食をとり行動開始です。レントハウスはコロンボ郊外の高級住宅地にあり緑一杯の閑静な小鳥のさえずりが聞こえてくる所でした。

1日目はチャンダナさんの家、チャミラの弟、末妹の家と3軒の家を訪問しお父さんにも挨拶をし、和やかな雰囲気のもとその日は終わりました。スリランカでは男女を問わず末っ子が親と一緒に暮らし、その家督を継ぎ親の面倒を見るというシステムになっているようです。

2日目はピンナワラ(リタイアした象の余生、傷を負った象の治療場所)、世界遺産のキャンディ、ダンブツラを通りアヌラダプラ到着です。アヌラダプラにはスリランカ軍の基地があり周りは緑が生い茂り野鳥の宝庫でした。日がさしてくると孔雀が美しい羽を広げているのが彼方此方で見ることができます。基地のキャプテンは、チャミラは親友で、チャンダナさんは彼らの先輩、教師のようでした。

そして基地に宿泊することになりましたが、食事、就寝にいたるまで至れり尽くせりで感銘を受けました。

アヌラダプラを後にし、コロンボに向かって南下ですが、途中で3箇所のお寺によりました。全てのお寺の入り口で靴を脱がされ裸足で境内の散策です。それ



人と人のまんなかに。

は我々二人には過酷なことでしたが、日本では見ることが出来ない大きな涅槃像を見ることが出来、感無量でした。

その他では22名のお坊様が来られる法要にも招かれ、また彼らの友人のお母様の通夜にも連れて行かれましたが、スリランカの人たちはみな優しく接して下さいました。

デイトスポットのColombo-Gallfaceでは、美しいSunsetを堪能し最終日を終わりました。

三井V-Netの留学生交流に参加して

桑原 泰弘 (三井物産 OB)



筆者と留学生

2013年春に三井V-Netに登録しました。のんびりした年金生活より、社会への恩がえしのつもりで、神戸大学の留学生交流支援に参加することにしました。

最初は、フランス人の工学部の学生オメル君(22歳)のサポートでした。互いの連絡の悪さもあり、また彼が夏休みで両親の住むマレーシアに戻ったことや、中国への再留学等もあり、わずか2回の交流で終わり物足りないものでした。

今回は、孫 鳴孜(そん めいし)さんという中国山東省出身の女性でした。彼女とは2013年秋に、神戸大学キャンパス内で開催された、留学生と三井V-Netとの懇親会に出席した際、積極的に会話をしてきたので「留学生交流登録」の申込みを勧め、その縁でお付き合いする運びとなりました。

月1回、日本語の言い回しや、日本文化(主に歴史)の紹介を行うことにしました。彼女は非常に積極的で、自分からメールで「何時、何処に行きたいので都合は?」と聞いて来たり、日帰りで初めてのスキーに行く場合のアドバイスを求めたり、春休みの帰省の折には、神戸のおみやげのおすすめを聞かれたりと、日本の気の良いおじいさんと思われるような接し方をして来ます。



メールや会った時の会話では、日本語の使い方の誤りを直したり、日本の歴史や文化に注釈を加えたりして、楽しく交流しています。彼女はまだ研究生で学部生ではないので、早く頑張っで学部生になってもらえれば、4年間という長い期間のサポートを通じて、日本の良さ

を伝えていきたいと思っています。

頭の回転が非常に早く、何でも話してくれ、交流していて自分としては若返ったような気分で、次に会うのが楽しみになっているのを実感します。

こういう機会を与えてくれた三井V-Netに感謝すると共に、会員の皆様には是非積極的に留学生交流されることをお勧めします。

大阪府済生会中津病院 ボランティア「こもれび」活動

大阪府済生会中津病院
病院ボランティアコーディネーター
松尾 裕美



左から二人目が筆者

「こもれび」ボランティア室の朝の風景は、一人、また一人とボランティアさんが集まって来られ、活動前のひと時のおしゃべりが弾みます。当院では2004年2月、3名のボランティア受入れ

に始まり、2014年4月では60余名にボランティア活動登録をいただいています。そのうち三井V-Netからご紹介をいただいた方は、2004年12月にお一人目となる故上村明様から数えると延20名、現在12名の方が月～金まで各々のご都合の良い曜日に活動をしていただいています。

活動内容は主にロビー案内と情報ライブラリー(患者図書・情報室)開館サポート活動です。ロビー案内では再診受付機前での案内や薬受取りサポート、入院患者様の病棟案内の他、病院周辺の美化清掃等をおこなっていただいています。活動者仲間の息もピッタリで、患者様がお尋ねされた検査室へのご案内をされている方があれば、再診受付機操作の手伝いをしておられる方、面会受付へのご案内。情報ライブラリーでは、図書貸出し及び返却手続や図書を一緒に選んだり、病気のことを調べたい患者様のインターネット検索のサポートをしたり。お昼までの約2時間、患者様への目配り、気配りとともにさりげなくお声をかけて寄り添い、職員とも積極的にパートナーシップを図ってくださいます。「まるで病院内に一筋のこもれびが射すような活動」と話す職員もあり、いつも温かな愛ある活動に職員一同、感謝しております。



「こもれび」活動は今年の2月で10年が過ぎ、記念行事と記念誌作成を計画しています。三井V-Netから活動していただいている梅津嘉一郎様（前こもれび代表）、道上博墨様（こもれび代表）はじめ皆様方のご尽力により開催を実現できますこと、紙面をお借りしてあらためてお礼申し上げます。

活動の終りに活動記録を各々に書いていただくのですが、活動者同士が気づいたことや、活動状況を話しながら共に喜び、励ましあっておられる姿を見る時が、コーディネーターとして嬉しく、かけがえのない時間となっております。これからもよろしく願い申し上げます。

「司馬遼太郎記念館への誘い」に参加して

長岡 和子（三井住友海上OG）



左が筆者

三井V-Net関西サロン特別企画に初めて参加させていただきました。

4月25日、爽やかなお天気のもと総勢19名の参加者の皆さんと、河内小阪駅から記念館へ向かう途中の公園入口に「21世紀に生きる君たちへ」の石碑があります。このメッセージで学んだ子供達はどんな

大人に成長しているだろうかと考えるうち緑豊かな正門に到着しました。正門から記念館に通じる小径は何時も気持ちの良い小径です。

まず、上村洋行館長から司馬作品や記念館設立前後のお話を伺いましたが、特にこの記念館は「展示を見るのではなく、感じて欲しい。感じる記念館と共にコミュニケーションの場でもある」と。また、記念館活動は文化の灯を保つために発信。経済は文化と一緒に発展しなければならない」とのお話が強く心に残りました。

館内の地下1階から地上2階まで吹き抜けの大書架には只々圧倒されます。パンフレットでは見たことがありましたが、現物を前にするとやはりすごい迫力です。これでも蔵書の一部2万冊の著書・資料しか展示されておらず、全蔵書は6万冊に及ぶと聞いてもその数は想像すら出来ません。地下1階に降り天を仰ぐと、書籍はまるで森の木のように何かを語りかけているようでした。

その後ホールで映画を鑑賞したり、館内を巡ったりしながら…司馬さんの本、特に歴史小説はこの記念館の大書架にも入りきれない膨大な資料・書籍を読み込まれて生み出されたのだと思うと、今まで読まなかつ



たことが何と勿体ないこととつくづく思い知らされた一日でした。

帰りに、あの気持ちの良い小径で樹木や花木を眺めていると、ボランティアの方が「この花はマンサクです」「あの新芽が出ている木は柏です。古い葉は新芽が出てから落ちるんですよ」と親切に教えて下さったのがいつまでも頭から離れませんでした。

柏の葉は葉っぱが枯れても枝に残って木を守り、春に新芽が生まれるのを待って落ちる…まるで司馬さんそのものようで、司馬さんは21世紀に生きる君たちへのメッセージが確実に子供達に届いたのを見届けて逝かれたのでしょうか…。

須磨海岸クリーンアップボランティアに参加して

山谷 典正（三井化学 現役）

去年秋に続き今回2回目の参加です。前回同様、家内と二人で参加しました。思い起こせば、この関西の地に移り住んではや10年余が過ぎました。子供たちも無事社会



へと巣立っていき、今では夫婦二人での関西生活です。妻も私も生まれは関東で、初めてこの関西の地を踏んだ時は多少戸惑いもありましたが、今ではすっかり関西のファンです。関西は何と言っても「食」は美味しい、「豊かな自然環境」には恵まれているし、特にこの須磨海岸地区は普段の都会の喧騒から離れて気分転換できる絶好のロケーションです。折角、この素晴らしい関西で暮らせる間は、二人で何か小さなことでもこの地に恩返しできないかという思いが、このクリーンアップ活動への参加動機の一つです。

昨年は初回参加のため、諸先輩方々の慣れた動きを見ながらのおぼつかない手つきではありましたが、さすが2回目ともなれば…と思いきや。今回も作業終了時の先輩諸氏方々のごみ収集量の多さには驚かされました。どう見ても我々のごみ袋より遥かに大きな袋にいっぱいのごみを集められており、収集後のごみの分類集



計作業も手馴れたもので、只々脱帽でした。まあ何はともあれ、今回も多く参加の皆様（主催者発表：440名）と一緒に須磨海岸クリーンアップをやり終えたこと、非常に清々しい達成感をいただきました。

午後は二人で須磨浦回覧展望閣方面へと足を伸ばしました。山頂からの展望はまた格別で午前中に自分たちが清掃活動した須磨海岸が美しく眺望できました。満足感と達成感を頂戴した今回のクリーンアップボランティア、次回もまた二人で参加したいと思います。

中国支部（広島）

これからのボランティア

田村 善嗣（東芝OB）

ボランティアとは、もともと「志願者」「有志者」という意味を持つ言葉で、誰もが自分で出来ることを自分の意思で周囲と協力しながら無償で行う活動のこととされています。無理なことは長続きしないので、気軽に参加出来てしかも自分自身も刺激を受けながら、楽しく続けられる活動に参加したいものです。

最近あるテレビ番組で、とある地方自治体が高齢の町民を集めて、体操やゲームを定期的を実施している様子を紹介していました。皆さん生き生きとして取り組んでおられ、結果として一人ひとりの医者にかかる回数が減ってその町の医療費が大幅に削減されたということです。



右端が筆者

今、少子高齢化が叫ばれております。現在4人に1人が65歳以上の高齢者とされており、今後益々増え続けていきます。この問題は避けて通ることが出来ません。一時期「老老介護」という言葉がありましたが、これはボランティアでは無理があります。しかし、老老サポートくらい感覚でなら可能です。先ほどの自治体の取り組みが全国的に広まれば良いのですが、それには「官」だけではなく、ボランティア団体の組織的、システムの関与が不可欠であると考えます。私自身は、目下平和記念公園の清掃活動と公共関連のコンサルタント的な活動に参加しています。上述の老老サポート的な動きにも是非参画したいと思います。ご一考を！

ボランティアに参加して

宮戸田 恵（登録活動会員）

「スリーコインズ」の一人としてボランティアに参加するようになって、2年近く経ちます。十数名のメンバーみんな心広く私を仲間に入れて下さり、月1、2回の参加ですがボランティアの話があるのを楽しみにしています。



私は箏または三味線の弾き歌いで施設の方々に楽しんでいただけるよう努めています。4月1日には桜がきれいに咲き誇っていましたので、「さくら変奏曲」のごく一部を聞いて頂きました。終わってから年配の方が近づいてこれ、「私も若い頃、箏を少し弾いたことがあるので、思いだし嬉しかった。桜の時期にさくら、さくらと箏の音が良かったです」と言って下さいました。皆さんに聞いて頂いて一番うれしい時です。

5、6年前までは私も友達とグループを組んで10か所以上の施設へ慰問させて頂いていました。でも自分の親の介護・病院通い始めた友達、何より私の家が火事で全焼したことでボランティア活動も途絶えてしまいました。主人が「若い頃からしていたことがなくなったのは可哀想に」と私の呆け防止もあってか箏と三味線を買ってくれました。稽古を再開し、姉が「スリーコインズ」の世話をしているのを知り、仲間に入れてもらい、今は日々稽古しています。世話をするリーダーの大変さが良く分かり、感謝しています。

邦楽の世界はいろいろ難しいことがありますが、どうぞ横やりがはいりませんようにと祈りつつ参加させて頂いています。



人と人のまんなかに。

「2014ひろしまフラワーフェスティバル」で 福祉活動に参加

中国支部 事務局



毎年ゴールデンウィークの5月3日から5日は広島の平和大通り、平和公園を中心に「フラワーフェスティバル」が開催されます。1977年から始まったこの祭りも今年で38回目となり3日間で観客数170万人と昨年に続く過去2番目の人出でにぎわいました。

当支部も設立当初から広島市ボランティア情報センターの紹介でこのイベントの福祉活動に参加しています。このフェスティバルには身体障害者の施設団体も参加しており、パレードへの参加、ふれあい広場でのステージの設営、わた菓子、お好み焼きの出店、餅つきなど色々なお手伝いのボランティアがあり、また原爆ドームの近くでは車いすが必要な方への車いすの貸し出し、車いすによる案内等「車いす・介助ステーション」が設置されました。

今回当支部からはパレード、餅つき、車いす介助のボランティアに総勢10名が参加しました。パレードでは用意されたピンクのTシャツを着て車いす介助をしながらの参加、餅つきでは石臼のもち米を杵でつき丸もちにしてぜんざいに入れて販売しました。

今年は3日、4日は好天気にも恵まれ1.2キロある平和大通りの両端沿いには様々な屋台と国際色豊かな色々な国の食彩も並び、また数多くのステージでは、連日、歌、ダンス、音楽演奏等、また平和大通りをグラウンドに見立てスポーツ選手による走り高跳びを披露するなどスポーツを介してふれあう盛り沢山のイベントが実施されました。今では広島の祭り「フラワーフェスティバル」は、中国地方において年間行事の大きな楽しみのひとつとなっています。



事務局便り

<入団事務局員挨拶>

本部(東京) 東 守(三井物産OB)
本年3月末に退団の高橋の後任として本年1月1日



付で三井V-Net事務局に入団致しました。

昨年まで三井物産のエネルギー本部に勤務しておりました。

不慣れなため何かとご迷惑をお掛けするかもしれませんが、皆様のお役に立てる様、精一杯尽力するつもりです。何卒よろしくお願い申し上げます。

関西支部 荒井 良子(東レOG)



関西支部で長年勤められた村上初江さんが、本年4月末で退団されることになり、後任として3月3日から勤務させていただいております。

今まで、ボランティアという言葉は聞いても、全く経験したことはなく、着任してまだ日も浅いのですが、活動している方々を身近に感じ、常に刺激を受ける毎日です。

これを機会に、大勢のボランティア会員の皆様や職員の皆様の活動を知りつつ、少しでもお役に立つよう努めたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

<退団事務局員挨拶>

事務局での6年9ヶ月

本部(東京) 高橋 勝栄(三井不動産OB)



2014年3月末をもって三井V-Net事務局を退団いたしました。2007年7月に入団して退団までの6年9ヶ月を会員の皆様はじめ事務局の皆様と一緒に楽しく過ごすことが出来ました。この間、東京大学・埼玉大学・一橋大学の国際交流、多摩川・荒川河川敷清掃活動、医療福祉活動の事務局業務およびニュースレター発行業務など担当させていただき、それぞれ貴重な体験をさせていただきました。

ボランティア活動に熱心に取り組まれる会員皆様は素晴らしいお人柄の持ち主で、活動の様子を見たり聞いたりまたお教えいただき、ボランティアについて多くのことを学ぶことができました。今後の自分自身の立ち位置について考えさせられる意義のある期間となりました。今、なんとか無事に退団することが出来ましたのは関係者皆様の温かいご支援とご協力があったからと感謝申し上げます。



人と人のまんなかに。

これからはボランティアの一メンバーとして私にあった活動に参加させていただければと思います。よろしくご指導いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、三井V-Netの会員皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、退団のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

有意義な時間、有難うございました。

関西支部 村上 初江(三井住友銀行OG)



2005年2月に入団して、2014年4月に退団させていただきました。ボランティアに全く縁のなかった私が、9年3ヶ月も三井V-Netで過ごせたことは大変有意義で幸せな時間でした。同志社大学留学生蔡雪皎様と親しく

なったことや、神戸大学留学生交流、関西サロンなどで会員の皆様ボランティアに対するあつい思いに接する度にいろいろ勉強させていただきました。また、未熟な私を支えて下さいました関西支部の澤野井潤一様には大変感謝致しております。前田昌巳様、誉田隆夫様にも大変お世話になりました。これからは、自分に出来るボランティアを見つけたいと思っております。

最後になりますが、三井V-Net会員の方々のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。今までお世話になりました全ての皆様本当に有難うございました。

2013年度「三井V-Net奨学金(ダルニー奨学金)」による支援のご報告

本部(東京)事務局

三井V-Netでは「書き損じはがき」「未使用はがきと切手」および「使用済み純正インクカートリッジ」など資金源となる物品を収集しております。毎年1月から12月までの一年間に集まった品々は、奨学金事業に25年の実績をもつ公益財団法人国際センターに送られ、換金作業を経て、経済的に恵まれないタイ国農村部の子どもたちの中学就学支援金として活用されております。

2012年に集まりました原資物品の換金結果は総額96,716円にもなり、2013年度『三井V-Net奨学金』として9口(※1口:1万円)の奨学金を5人の子供の学資に充てることができました。そのうちの2名につきましては卒業までの3年間の学資を確保いたしました。

ボランティア会員様はじめ、会員会社の現役社員の皆さまや当団のホームページをご覧いただいた一般の皆さまからのご協力にあらためて感謝申し上げます。

なお、経済成長著しい東南アジアにおいては物価の上昇が続き、現地の親たちの負担も大幅に増え、奨学生の経済状況の苦しさが現地より伝わってきております。この状況のもと、2014年度分より一口あたりの奨学金が14,400円に変更となることが決まっております。皆さまのご理解を賜り、ひきつづき心温まるご支援のほど心よりお願いいたします。



奨学金を受けて中等教育課程を本年3月に修了したタイの生徒と礼状



予告

第8回エリザベス・サンダース・ホーム「チャリティコンサート」開催のご案内



三井V-Net 湘南倶楽部では、JR大磯駅前にあります聖ステパノ学園「海の見えるホール」にて、チャリティコンサートを下記のとおり開催いたします。

後日ご案内いたしますが皆様お誘いあわせのうえ、お越しく下さるようお願い申し上げます。

なお、チャリティコンサートの収益金は、同ホームに寄付いたします。

~~~~~ 記 ~~~~~

- 1. 日 時 2014年11月9日(日) 14時開演予定
- 2. 会 場 聖ステパノ学園「海の見えるホール」
- 3. 演奏者 小林 洋平氏(サクソ奏者)、  
木原 健太郎氏(ピアノ奏者)  
弦楽器奏者7~8名

編集責任者:山崎 俊一

# 三井ボランティアネットワーク事業団 (三井V-Net) 皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ有志各社の協力を得て、1996年に設立されました。主として三井グループ企業出身のシニア層のボランティア活動を推進し、豊かで健康な生きがいを感じられるように支援を行い、以て三井グループ全体の社会貢献とすることを主たる目的としています。ボランティア活動会員登録には入会金および年会費等は不要です。ボランティア活動については保険に加入しています。

|                                                              |                                        |                                                                       |             |
|--------------------------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-------------|
| <b>ボランティア活動会員登録票</b>                                         |                                        | FAX (関東地域) 03-5570-8035<br>(関西地域) 06-4396-8681<br>(中国地域) 082-222-5101 |             |
| 三井ボランティアネットワーク事業団(三井V-Net) 御中<br>貴事業団を通じたボランティア活動への参加を申込みます。 |                                        |                                                                       |             |
| 記入日 20 年 月 日                                                 |                                        |                                                                       |             |
| 氏 名                                                          | (フリガナ)                                 | 生年月日                                                                  | 19 年 月 日    |
|                                                              |                                        | 性 別                                                                   | [ ]男 ・ [ ]女 |
| 住 所                                                          | 郵便番号                                   | -                                                                     |             |
| 自 宅 電 話 番 号                                                  | - -                                    |                                                                       |             |
| 自 宅 F A X 番 号                                                | - -                                    |                                                                       |             |
| 携 帯 電 話 番 号                                                  | - -                                    |                                                                       |             |
| E-Mail Address                                               |                                        |                                                                       |             |
| 出 身 企 業                                                      |                                        |                                                                       |             |
| 以下の活動についてご希望される項目に○印を入れて下さい(複数可)                             |                                        |                                                                       |             |
| 希<br>望<br>す<br>る<br>ボ<br>ラ<br>ン<br>テ<br>ィ<br>ア               | ① [ ] 国際交流(留学生と日本語を通じての交流・文書作成の支援等)    |                                                                       |             |
|                                                              | ② [ ] 環境保全(河川敷・海岸等の掃除、水源林地域保全活動)       |                                                                       |             |
|                                                              | ③ [ ] 医療(病院外来の案内・図書整理・演奏活動等)           |                                                                       |             |
|                                                              | ④ [ ] 福祉(福祉施設内の草刈・掃除、福祉団体主催イベントでの手伝い等) |                                                                       |             |
|                                                              | ⑤ [ ] 文化・教育(文化施設での手伝い、アジアの児童の奨学金支援)    |                                                                       |             |
| 会員登録の動機について該当項目に○印を入れて下さい(複数可)                               |                                        |                                                                       |             |
| [ ] 出身企業の紹介                                                  | [ ] ホームページを見て                          | [ ] ニュースレターを見て                                                        |             |
| [ ] 知人の紹介                                                    | [ ] その他( )                             |                                                                       |             |

上記入手の個人情報は、個人情報保護法の方針に従って厳重に管理し、ボランティア活動に必要な範囲内に限り使用させていただきます。

## 三井ボランティアネットワーク事業団

本 部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3階  
TEL:03-5570-2181 FAX:03-5570-8035

関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル4階  
TEL:06-4396-8680 FAX:06-4396-8681

中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 槌本ビル5階  
TEL:082-222-5101 FAX:082-222-5101

ホームページからも登録していただけます。 <http://www.mv-net.com/>